参考資料９

繊維状物質自動計測機器について

小西淑人

○　現状では、各機器の間でリアルタイムで計測された濃度の増減の傾向は類似しておりますが、個々の濃度データにはばらつきあることは否定できません。

これは、校正手法の不統一と各機器の感度の違い等によるものだと思います。現行のアスベストモニタリングマニュアル 4.0 版に記載してある測定手法については、セキュリティゾーン前の室内濃度がすでに高くなっていることも考えられますので、バックグランド測定方法を解体等による影響を受けない一般大気中で少なくとも 30 分以上確実に実施するようにした方がいいと思います。

最近、漏洩が続いておりますので、やはりリアルタイム計測は不可欠だと思いますが、前回、環境省から提示された導入方法に従って、有効な使用方法を確立すべきだと思います。